

残雪期 槍ヶ岳・硫黄尾根

4/26～4/28

メンバーL 深見、薬師寺(記録)

行程

4/26(土)快晴

8:00 高瀬ダム

10:30 湯俣-硫黄岳前衛峰 P1～P3

17:00 幕営(P3～P4 のコル)

4/27(日)快晴

5:30 発-P4～P6-小次郎のコル

8:30 硫黄岳

9:20 硫黄台地

10:30 コル

11:20 南峰-赤岳前衛峰 P1～P8

15:30 幕営(中山のコル)

4/28(月)快晴

5:30 発-赤岳主峰群 1～5

8:20 白樺台地

11:30 千丈沢乗越

17:00 新穂高温泉(宿泊)

昨年末に初めての積雪期登山として劔岳早月尾根に行った。その際、中嶋さんから槍ヶ岳北鎌尾根に並行する積雪期限定の硫黄尾根の存在を教えてもらう。2年後くらいには行ってみたいと、うっすら思っていたが、なんだかんだあって同シーズンのうちに来ることができた。

今年のGW後半の春合宿は劔岳小窓尾根である。それならGW前半も何処か登山に行きたいと思い、深見さんにご相談したところ快諾いただいた。話にあがっていた硫黄尾根である。

1日目(快晴)



なんば駅発の夜行バスで5時頃松本駅に到着、5月とはいえ気温は一桁台で肌寒い。そこから電車、タクシーを乗り継ぎ七倉到着。登山届を出したら「朝一ソロで硫黄尾根入っていった人いるよ」とのこと、先行者がいることにホッとすると同時に残念な気持ち。

タクシーのまま高瀬ダムへ。ダム工事の際、掘削された石を用い造られたダムとのこと。めちゃくちゃかっこいい、アクセスが良ければちょっとした観光地になっているのではないだろうか。

高瀬ダムから歩き始める。すぐ暖くなるはずと予想し朝から半袖だが、なかなか体があたたまらず寒い。



湯俣山荘を過ぎ、尾根に取りつくため、渡渉ポイントに向かう。



深見さんが空身で偵察してくれるが、流れが速く王道ルートからの渡渉を断念。
湯俣川側から登った記録もあるからそちらから登ってみようと向かうも崩落しており断念。
渡渉撤退が濃厚になってきた。記録にはなかったがダメもとで末端から尾根を詰めていく。撤退するにも時間は有り余っている訳だし。。

地形図では崖マークが続いていたが、ガレ場と激ヤブを1時間突っ込みつづけると、尾根に出れ



た。

強だけでなく、渡渉のリスクを考慮しつつ、遂行可能なルートを考えられる深見さんの安定感
は抜群である。私だけだったら、一か八か渡渉し、、、

しばらく進んだところで硫黄岳を目指している人に出会う、硫黄岳ジャンダルム群 P3～P4 のコ
ルが幕営可能のようだ。幕営予定地の小次郎のコルまでつかないし、その手前の硫黄岳までも
届きそうにない、、と話していたところにこの情報はありがたい。



岩を乗越し、P3で懸垂して1日目は終了。



予定よりは進めていないが、渡渉撤退が濃厚ななかでここまで来ることができたため感無量である。

2日目(快晴)

4時起床、5時半出発。

朝一体力が回復しきっている中、難なく硫黄岳着。山頂から本日の核心、赤岳ジャンダル群(仮)をのぞむ。わかりやすい懸垂ポイントで3ピッチ下降し、ボロボロの岩場を登り返す。



予想以上にすんなり核心を超えたと安堵しながらピークに着くと、眼下には赤黒いピークが乱立している。

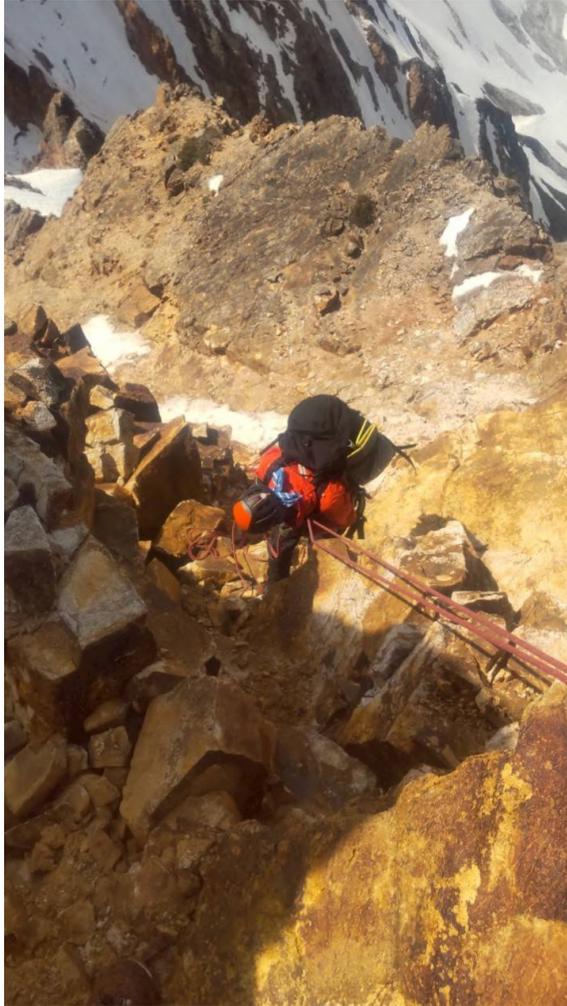


深見さんと地形図を確認する、さきほど赤岳ジャンダルム群だと思っていたのは、名称もないただの岩場だった。そういえば、中嶋さん達が登った時も、赤岳ジャンダルム群を見間違いしたと記録にかいてあった。。改めてルートの高さを痛感する。

見下ろしながら、巻くピークの検討をつける。P1に入っすぐ、ボロボロに感じていたこれまでの岩場が可愛く感じるほど、岩が脆くなる。一枚岩だと安心して手をかけても、ボロボロとヒビが入り剥がれていく。安定していると思っていた足場も取れるし、冷や汗が止まらない。



落ちないこと、落とさないことを肝に銘じるが、剥がれてしまう岩はどうしようもないため遠くに投げ捨てる。本当は岩と雪稜歩きの予定だったが、雪がないため左の千丈川側は終始ルートの可能性



がなかった。

直登したり、懸垂したり、巻いたりしピークを超えていくうちに、今のピークにいるのかわからなくなる。岩陰に残っている雪は、凍っていたりするのだが、剥き出しの岩に比べ歩きやすさが段違いである。

そうこうしているうちに、一番大きく見えた P7? のピーク直下まで到達。

巻くにしてもルートがわかりづらかったため、深見さんリードで直登することに。深見さんが登れても、僕じゃフォローでも登れるかどうか、、、と思いつつビレイする。一手二手と進む度に、岩が剥がれ上からパラパラ石が落ちてくる。危ないから、巻こうかという深見さんの判断にホットする。

その後ももう一つピークを超え、赤岳主峰直下の仲山沢のコルに幕営。

テント設営後、疲れ過ぎて荷物も展開せず一旦寝る。



3日目(快晴)

4時起床、5時出発。本日も快晴無風。

赤岳主峰への登り返しの傾斜はきついが、左のルンゼに雪がついていたため、昨日に比べ比較的快適に進むことができた。パラパラ降ってくるなら、石より、氷の方が格段に良い。

進むにつれ雪の量も増えてこの日は懸垂なしで時間を短縮できた。8時半には尾根末端の白樺台地に到着。



通過してきた赤い硫黄尾根、並行して見える黒い北鎌尾根、その他北アルプスの山々を眺めることができる天界のような幕営適地である。今年の年末にここにテントを張ろうと心に決める。

下山は、西鎌尾根に合流し、千丈沢乗越から新穂高へと降りた。段々と空が曇り初めて新穂高に着く頃には雪混じりの小雨が降り始めた。
自分たちへのご褒美にと、新穂高に泊まり、美味しい飛騨牛を食べ、翌日高速バスで帰阪した。

